

の状態であった。経時的にはほとんど変化はみられなかった。

またミトコンドリアおよびミクロゾーム分画に結合していた ^{201}Tl もタンパクを加水分解することによって、遊離の ^{201}Tl となった。

23. 肝細胞癌における肝シンチグラムの再検討(細小肝細胞癌を中心に)

吉田 宏	松尾 定雄	矢橋 俊丈
安田 鋭介	岩田富貴子	樋口ちづ子
市川 秀男	木村 得次	金森 勇雄
(大垣市民病院・特放セ)		
中野 哲	綿引 元	武田 功
太田 博郎	杉山 恵一	坪井 英之
児玉 泰浩		(同・二内)
佐々木常雄	石口 恒男	(名大・放)

近年、肝細胞癌は各種 tumor marker および画像診断法の進歩に伴い、より早期に発見が可能となってきた。その中で肝シンチグラムの地位を再認識するため、今回われわれは肝シンチグラムにおける肝細胞癌の描出限界を腫瘍の大きさ、占拠部位について retrospective に検討を行ったので報告した。

ま と め

(1) 細小肝細胞癌の診断率は腫瘍の大きさが $<2\text{ cm}$ のもの6例中2例(33%), $2\leq, <3\text{ cm}$ のもの12例中10例(83%), $3\leq, <5\text{ cm}$ のもの9例中9例(100%)であった。

(2) 腫瘍の大きさ別にみた描出の程度は $<2\text{ cm}$ においては明瞭に描出されたものはなく、equivocal例、描出不能例が多かった。 $2\leq, <3\text{ cm}$ のものは12例中5例、 $3\leq, <5\text{ cm}$ のものは9例全例明瞭に描出された。

(3) 腫瘍の占拠部位別描出率は Anterior segment 8例中4例(50%), Posterior segment 8例中7例(88%) Lateral segment 2例中1例(50%)であり、Posterior segment のものが描出率は高かった。

24. $^{99\text{m}}\text{Tc-N}$ -ピリドキシル-5-メチルトリプトファン ($^{99\text{m}}\text{Tc-PMT}$) の検討

松尾 定雄	吉田 宏	矢橋 俊丈
安田 鋭介	岩田富貴子	市川 秀男
木村 得次	金森 勇雄	
(大垣市民病院・特放セ)		
中野 哲	綿引 元	武田 功
太田 博郎	杉山 恵一	坪井 英之
児玉 泰浩		(同・二内)
佐々木常雄	石口 恒男	(名大・放)

今回われわれは肝胆道イメージング剤である $^{99\text{m}}\text{Tc-N}$ -ピリドキシル-5-メチルトリプトファン (以下 PMT) を使用する機会を得たので、肝胆道系の描出および肝機能検査成績との関係について臨床面で検討したので報告した。

ま と め

1) 正常例における $^{99\text{m}}\text{Tc-PMT}$ の肝胆道移行は速やかにかつ腎からの排泄は少なかった。

2) 肝機能検査成績からみた胆道描出は AI-P 値において最高 127 K-A-U と $^{99\text{m}}\text{Tc-PI}$ の描出限界(70 K-A-U)を越えていた。また、ビリルビンとの競合性は T-Bil 値 16.3 mg/dl の症例においても描出され $^{99\text{m}}\text{Tc-PI}$ の描出限界をやや上回るものであった。

3) 中等度黄疸症例における $^{99\text{m}}\text{Tc-PMT}$ の肝胆道移行は胆道疾患が肝疾患に比し優れていた。

4) 本薬剤による副作用は全く認められなかった。

25. Segmental biliary obstruction の肝胆道シンチグラム像

油野 民雄	石田 博子	利波 紀久
久田 欣一		(金大・核医)
桑島 章		(東邦大・放)

Segmental biliary obstruction とは、肝内胆管系の一部が閉塞することであるが、原因疾患として、肝内胆管結石、および肝内胆管系の悪性疾患(原発性、続発性)が知られている。このような obstruction におけるシンチグラム像は、① complete obstruction (肝内胆管の閉塞部がイメージ上描出されない)と、② incomplete obstruction (閉塞部における肝内胆管の描出が非閉塞部に比べ遅く、かつ閉塞部に RI pooling 像がみられる)を示すとされる。